

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 12 章 22～32 節>

①この個所で問題にすべき相手はサタンではない！

この個所を一読すると、悪霊の頭ベルゼブルやサタンのことが何度も出て来るので、それらについて考えることが大事なのだと思いますが、本当にそうでしょうか？ ここでイエス様に逆らっている存在は何ですか？ サタンではなく、ファリサイ派の人々、私たちと同じ人間です！ 聖書にサタンが出て来るから、私たちを捕らえて苦しめる、神様とは違うサタンは存在するのだ、と考えるのは単純過ぎます。聖書は、唯一の神が存在し、この世界を造り、今も支配し給うことを語るのみで、その神に対抗するもう一つの力ある闇の帝王が存在するなど考えることから程遠い書です。では、サタンでもって考えるべきことは何なのでしょう？

②今はサタンに怯える時か？否、キリストの支配を思って生きる時！

この個所でイエス様が言われていることで一番大事な言葉は、「私が神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」(28)です。ここで「国」と訳されている原語は「支配」という意味の言葉です。つまり、「私の癒しを見たら、神の支配が始まっていることを思いなさい」と言われているのです！ キリストの神に出会った後、私たちはどのように考えて生きればいいのか？ 勝負のついた終戦後の状態に例えたバルトの話を思い出します。

「大戦の行方は決した。しかしなお、敗残兵が所々で悪さをするのは残っている。あとはそれに注意することのみ」。私たちがキリストによってその支配を示して下さった神様を見つめず、敵や障害や試練や、そんなものばかり見つめている状態、それが「サタンが私たちを支配している」と表現される状態なのです。

③一番強いのはイエス様、そう信じて生きること！

その後言われているのは、一番強いのはイエス様だということです(29 節以下)。「サタンや悪霊を持ち出し、何を恐れているのだ。何があろうと、私がいれば大丈夫ではないか」、そうイエス様は言われているのです。問題はサタンではありません、私たちが主をどこまで信頼するかなのです！ 映画「エンド・オブ・デイズ」の話。